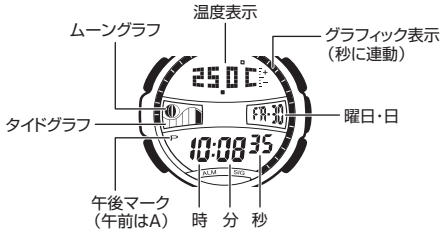
Operation Guide 4707

CASIO

各部の名称と表示の見方





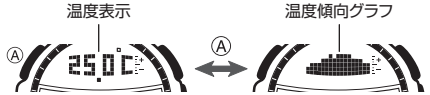
※表示例では、アナログ部（針）を省略する場合があります。

●温度計測について

本機には温度センサーが内蔵されており、常時２分おきに時計内部の温度を計測し、表示します。
また、計測した温度と時刻を 30 分ごとに最大 50 本まで記憶する温度メモリー機能もついています。
※詳しくは「温度メモリー機能について」をご覧ください。

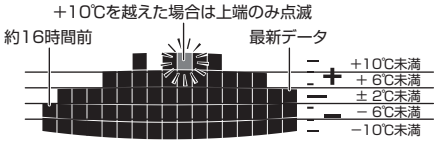
●温度傾向グラフ表示切替え

時刻モードでⒶボタンを押すごとに、温度表示と温度傾向グラフ表示が切り替わります。



●温度傾向グラフの見方

温度傾向グラフはメモリーされた温度から、「最新データ」を基準にして 1 時間ごとの傾向グラフとして表示します。



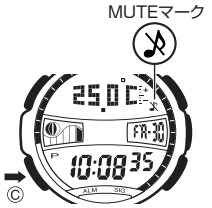
操作音について

モード切替時などに鳴る操作音のON／OFFを切り替えることができます。

●操作音の ON/OFF 設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでもⒸボタンを約３秒間押します

➡確認音が鳴り、操作音のON／OFFが切り替わります。
※操作音を OFF にしているときは、MUTE マークが点灯します。
※操作音が OFF でも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。



モード切替え

Ⓒボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。
詳しくは各機能のページをご覧ください。

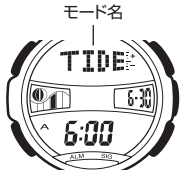
※ストップウオッチモード、タイマーモード、ワールドタイムモード以外で2～3分間そのままにすると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード



Ⓒ

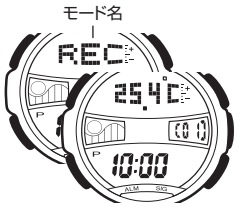
タイド／ムーンモード



潮の満ち引き、月齢や月の形を知ることができます。

Ⓒ

温度リコールモード



メモリーした温度データを見ることができます。

Ⓒ

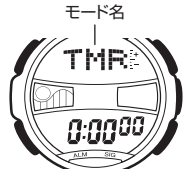
ストップウオッチモード



1/100秒単位で99時間59分59秒99（100時間計）まで計測できます。

Ⓒ

タイマーモード



1分単位で100時間までセットできます。（減算計測は1秒単位）

Ⓒ

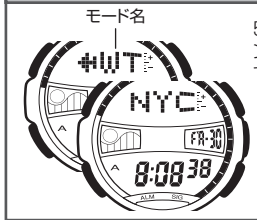
アラームモード



アラーム時刻のセット、時報のオン／オフができます。

Ⓒ

ワールドタイムモード



50都市30タイムゾーンの時刻を見ることができます。

Ⓒ

ハンドセットモード



アナログ針の時刻を合わせることができます。

Ⓒ

ライト点灯について

本機の表示部にはELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときにライトを点灯させて時刻を見ることができます。また、時計を傾けるとライトが点灯するオートライト機能もあります。

■ボタンを押して点灯させる
～手動点灯～

どのモードのときでも

Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓑ ボタンを押すとライトが点灯します。



※ オートライトOFFのときもⒷボタンを押すと点灯します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

■時計を傾けて点灯させる
～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても時計を傾けるだけでライトが点灯する便利な機能です。
暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。
オートライト機能では、ハンドセットモードのセット状態を除くどのモードのときでも、時計を傾けるだけでライトが約1.5秒間点灯します。

準備：時刻モードのとき、Ⓔ ボタンを約３秒間押し続けて、オートライトON（オートライトONマーク点灯）にします。



※オートライトONのとき、Ⓔ ボタンを約３秒間押し続けるとオートライトOFF（オートライトONマーク消灯）に戻ります。

●ライトを点灯させる



※オートライト機能を使用するときは、時計を**「手首の外側」**にくるようにつけてください。

※文字板の左右（3時－9時方向）の角度を±15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると点灯しにくくなります。



〈ご注意〉
- 直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
- ライト点灯中に操作音やアラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
- ハンドセットモードのセット状態では、オートライトは作動しません。
- ライト点灯中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

〈オートライトご使用時の注意〉
- オートライトが作動するのは、オートライトONにしてから約6時間です。それ以降は電池消耗防止のため、自動的にオートライトOFFになります。

※引き続きオートライトを作動させたいときは、再度Ⓔボタンを約3秒間押し続けてオートライトONマークを点灯させてください。ただし、オートライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなりますのでご注意ください。

- 時計を傾けたとき、ライトの点灯が一瞬遅れることがありますが異常ではありません。
- ライト点灯後、時計を傾けたままにしておいても、点灯は約1.5秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても点灯することがあります。**オートライトを使用しないときは必ずOFF**にしておいてください。

※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。

- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、点灯しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも点灯しにくいときは、腕を下からふりあげてみると点灯しやすくなります。

タイドグラフ／ムーングラフの見方

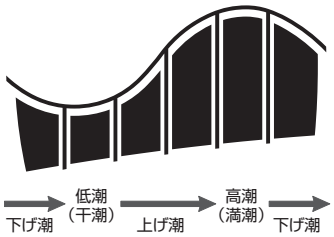
本機の表示するタイドグラフ、ムーングラフは、場所により表示される形が異なります。ご使用の前に「使用場所のセット」をご覧になり、あらかじめ使用する場所のデータ（時差・経度・月潮間隔）をセットしてください。
※工場出荷時は「使用場所＝東京（時差＋9.0、経度140°E）、月潮間隔＝5時間20分」にセットされております。

●現在のタイドグラフを見る
～（潮の様子）～

時刻モードのとき、現在時刻のタイドグラフが表示されます。

※本機のタイドグラフ表示は以下のように「潮の様子」を表わします。





●今日のムーングラフを見る
～（月の形）～

時刻モードのとき、今日の正午時のムーングラフが表示されます。

※ムーングラフが示す月の形は、デジタル表示されている部分が「月の影」で、表示されていない部分が「月の形＝見える形」です。（「月齢表示の見方」参照）

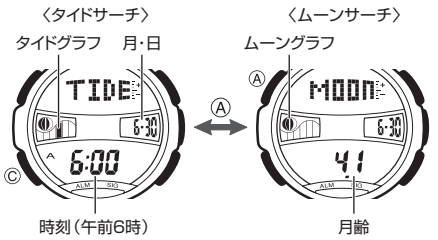




●タイド／ムーンモードに切り替える

タイド／ムーンモードに切り替えると、タイドサーチまたはムーンサーチとなります。

※タイド／ムーンモードにするには、時刻モードからⒸボタンを１回押します。最初は「今日」の「午前６時」を表示します。



※タイドサーチまたはムーンサーチは前回見た方が最初に表示されます。

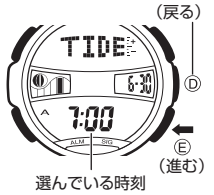
※タイド／ムーンモードではⒶボタンを押すごとにタイドサーチとムーンサーチが切り替わります。

●その日のタイドグラフを見る

タイドサーチを表示しているときに

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに１時間ずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに１時間ずつ戻ります。



※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

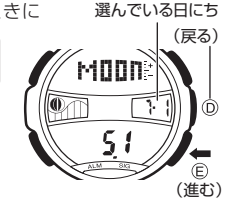
※ タイドサーチでは当日のみのサーチができます。

●月齢やムーングラフを見る
（日にちを変えて見る）

ムーンサーチを表示しているときに

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに１日ずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに１日ずつ戻ります。



※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

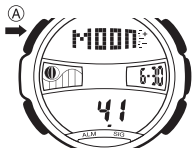
※ ムーンサーチでは2000年1月1日～2099年12月31日までのサーチができます。

■好きな日のタイドグラフを見る

●日にちを送って探す

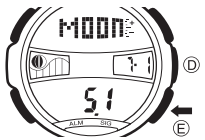
1. ムーンサーチに切り替える

Ⓐ ボタンを押します



2. 日にちを探す

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します



3. タイドサーチに切り替える

Ⓐ ボタンを押します



4. 時刻を探す

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します



ご注意

本機で表示される情報は、航海の用に供するものではありません。航海には必ず海上保安庁刊行の潮汐表を使用してください。
本機のタイドグラフ表示は、あくまで潮の満ち干きの様子を見る“目安”としてお使いください。

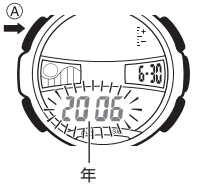
●日にちを指定して探す

1. セット状態に切り替える

タイド／ムーンモードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡サーチ方法が切り替わった後、年が点滅します。



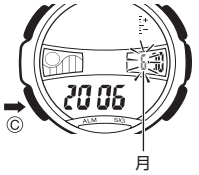
2. セット箇所を切り替える

Ⓒ ボタンを押します

➡点滅箇所が以下の順で切り替わります。

※ 点滅箇所がセットできます。

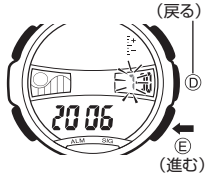
年 → Ⓒ → 月 → Ⓒ → 日 → Ⓒ



3. 点滅箇所をセットする

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ戻ります。



※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

手順 *2.*～*3.* の操作を繰り返して、年・月・日をセットします。

※セットは 2000 年 1 月 1 日～2099 年 12 月 31 日までできます。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま 2～3 分間すると、自動的に点滅が止まります。



■使用場所のセット

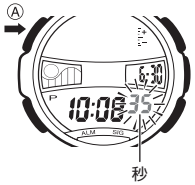
●使用場所のセットは、一度行なえば再びセットする必要はありません。ただし、引っ越しや旅行などで大きく移動したときは、その場所に合わせてセットしなおしてください。
●工場出荷時は「使用場所＝東京（時差＋ 9.0、経度 140° E）、月潮間隔＝ 5 時間 20 分」にセットされています。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

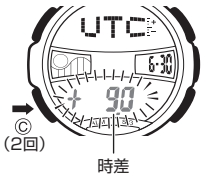
➡秒が点滅します。



2. 時差のセットに切り替える

Ⓒ ボタンを 2 回押します

➡時差が点滅します。



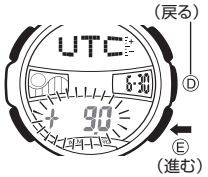
※ 時差については「都市コード一覧」をご覧ください。

※ UTC=Coordinated Universal Time（協定世界時）

3. 時差をセットする

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 0.5 時間ずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 0.5 時間ずつ戻ります。



※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

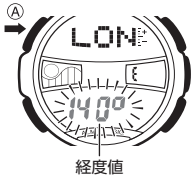
※ 時差は 0.5 時間単位で－ 12.0～+0.0～+14.0 時間までセットできます。

※ DST の ON/OFF にご注意ください。

4. 経度のセットに切り替える

Ⓐ ボタンを押します

➡経度値が点滅します。



5. 経度と月潮間隔を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡点滅箇所が以下の順で切り替わります。

※ 点滅箇所がセットできます。

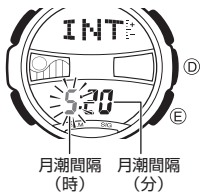


経度値 → Ⓒ → 経度方向 → Ⓒ → 月潮間隔（時） → Ⓒ → 月潮間隔（分） → Ⓒ

※ 経度をセットするときは、「日本の経度」を、月潮間隔をセットするときは「月潮間隔一覧表」を参照してください。

6. 経度と月潮間隔をセットする

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します



★経度値をセットするときは・・・

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 1 度ずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 1 度ずつ戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※ 経度値は 1° 単位で0～180° までセットできますので、1° 未満の端数は丸めて入力してください。
例）50° 40′ ＝51°

※ LON=Longitude（経度）

★経度方向をセットするときは・・・

Ⓔ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとにE（東経）とW（西経）が切り替わります。

★月潮間隔をセットするときは・・・

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

※ INT=Lunitidal Interval（月潮間隔）

手順 *5.*～*6.* のの操作を繰り返して、経度と月潮間隔をセットします。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します



➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ 参考

●月齢表示の見方

月の形	新月		上弦		満月
月齢	0.0～1.8	1.9～5.5	5.6～9.2	9.3～12.9	13.0～16.6
表示					

月の形		下弦		新月
月齢	16.7～20.2	20.3～23.9	24.0～27.6	27.9～29.5
表示				

●ムーングラフが示す月の形は、黒く点灯している部分が「月の影」で、点灯していない部分が「月の形＝見える形」です。



●月の形は表示日の「正午」において、北半球を基準として月を南向きに見上げたときのおおよその形です。

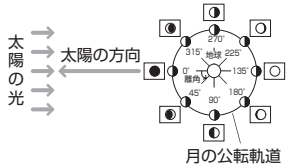
※ 月の左右どちらが欠けているかのみを表現するものであり、実際に見える月の形とは異なります。なお、南半球や赤道付近で北寄りに月が見えるときは左右逆に見えます。

●月の形は、時刻・カレンダーおよび使用場所を正しくセットしておかないと正しく表示されませんのでご注意ください。

●月の満ち欠けと月齢

月は約29.53日の周期で満ち欠けを繰り返します。これは月の公転により地球と太陽に対する月の位置（月の離角）が少しずつずれることで、地球から見た月の影の見え方が変わるためです。
なお、月の満ち欠けや月相のことを天文用語では「月の盈虚（えいきょ）」といいます。

※月齢…新月（朔：さく）からの経過時間を日数で表わしたもの。
※月の離角…地球から見て太陽の見える方向からの角度



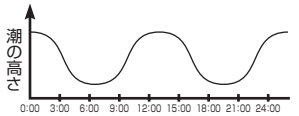
□内は地球から見た月の形(北半球基準)

月の満ち欠け	月の離角	月齢
新月（朔：さく）	0°	0.0日
上弦	90°	約7.4日
満月（望：ぼう）	180°	約14.8日
下弦	270°	約22.1日

※なお、本機は月の平均朔望周期(29.53日）を利用した計算法で算出しているため、実際の月齢との誤差は±１日になることがあります。

●タイド（潮汐）とは

地球上の海面は、約６時間ごとに高くなったり、低くなったりする昇降運動を繰り返しています。
これは、潮汐（ちょうせき）と呼ばれ、主に月の引力に作用されて起こる現象です。



●本機のタイドグラフは

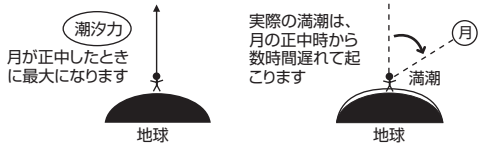
本機は、月の正中時間と月潮間隔から、潮の満ち干きの様子をグラフ表示（＝タイドグラフ）します。地域（港）により月潮間隔が異なるため、あらかじめその時間（＝月潮間隔）を本機に設定しておく必要があります。地域ごとの月潮間隔は「月潮間隔一覧表」を参照してください。

※なお、日本海側および半月（小潮）のときは、潮汐現象がはっきり現れないため、誤差が大きくなります。

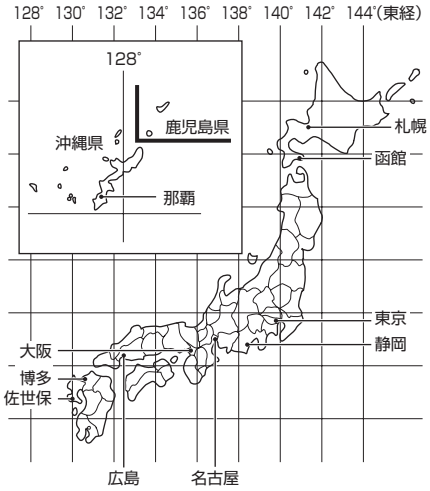
●月潮間隔について

理論上では、月が正中したとき（下図左）に高潮（満潮）になり、その約６時間後に低潮（干潮）になるといわれています。ただし、実際の地球上では、海水の粘性や摩擦、海底の地形などの影響によって正中時より遅れて高潮になります（下図右）。この時間差を「月潮間隔」と呼びます。

月が正中後、高潮になるまでの時間差を「高潮間隔」、低潮になるまでの時間差を「低潮間隔」と呼び、この２つを総称して「月潮間隔」といいます。
「月潮間隔」は同じ日本国内でも地域（港）により異なります。
なお、それぞれの地域で長期間にわたって調査した「高潮間隔」の平均値を「平均高潮間隔」といいます。



●日本の経度



●月潮間隔一覧表

～日本の港における平均高潮間隔～

この表の使い方

本機を使用する場所（港）を探し、その場所に一番近い地域の月潮間隔を読み取り、その時間を本機に入力すると、その場所でのタイドグラフを表示できます。

地　域	地(港)名	平均高潮間隔 時　分
北海道北岸	紋別＊	3:04
北海道西岸	稚内＊	3:59
	留萌＊	4:23
	小樽＊	4:10
北海道南岸	函館	3:46
	室蘭	3:37
	苫小牧	3:39
	浦河	3:41
	釧路	3:39
本州北岸	青森	3:32
	大湊	3:44
本州東岸	八戸	3:37
	釜石	3:53
	塩釜／港橋	4:04
	小名浜	4:15
	鹿島	4:23
本州南岸	南伊豆(小稲)	5:36
	清水	5:47
	衣浦／武豊	6:04
	名古屋	6:09
	四日市	6:05
	尾鷲	5:54
	串本	6:02
	田辺	5:58

地　域	地(港)名	平均高潮間隔 時　分
東京湾	千葉灯標	5:15
	東京／芝浦	5:18
	横浜／新山下	5:18
	横須賀	5:15
瀬戸内海	和歌山	6:29
	小松島	6:13
	大阪	7:25
	神戸	7:28
	姫路／飾磨＊	11:08
	宇野	11:10
	高松	11:15
	水島	11:18
	尾道	11:03
	新居浜	11:01
	広島	9:36
	呉	9:38
	松山	9:07
	大分／鶴崎	8:22
	苅田	8:53
	徳山	8:41
	宇部	8:49
	下関／壇の浦	8:58
	門司／旧門司	8:57
	八幡	9:52

地　域	地(港)名	平均高潮間隔 時　分
四国南岸	高知	5:59
豊後水道	宇和島	7:15
南方諸島	八丈島／神湊	5:28
	父島／二見	6:27
本州北西岸	浜田	12:11
	境	2:20
	舞鶴／第１区	2:27
	富山	2:50
	新潟／西区	3:02
	秋田	3:16
九州北岸	博多／東浜新ふ頭	9:36
	唐津	9:22
	対馬／厳原	8:42
九州西岸	佐世保	8:17
	長崎／松ヶ枝	7:55
	三池	8:50
	三角	8:42
九州南岸	鹿児島	7:05
九州東岸	油津	6:01
	細島	6:06
南西諸島	奄美大島／名瀬	6:49
	那覇	6:50

※上記の表は、高潮と低潮が1日2回ずつおきるときの月潮間隔を記載しています。ただし、＊印のついた地域は、高潮と低潮の間隔にばらつきがあるため、季節により高潮と低潮が1日1回ずつしか起きないことがあります。このような時期では、本機のタイドグラフと実際の潮汐現象とが大きく異なりますのでご注意ください。

出典：海上保安庁「書誌第781号　平成10年　潮汐表　第1巻　日本及びその付近」
水路図誌利用「海上保安庁図誌利用　第100043号」

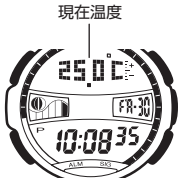
温度計測について

本機には温度センサーが内蔵されており、常時2分おきに時計内部の温度を計測し、時刻モードで現在温度を表示します。
また、計測した温度を時刻とともに50本記憶する温度メモリー機能もついています。
※「温度メモリー機能について」参照。

●温度表示の見方

現在温度は時刻モードで表示されます。

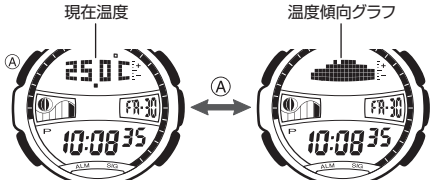
表示単位：0.1℃
表示範囲：－10.0～60.0℃
※範囲外は“－－.－℃”表示
測定誤差精度：±2.0℃



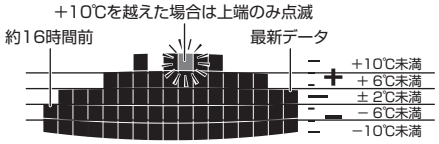
- 外気温を計測するときは、時計を腕からはずして体温、汗（水滴）、直射日光などの影響を受けないようにしてください。
- 実際の外気温と時計自体の温度が同じになるまでに、20～30分程度かかります。

●温度傾向グラフの見方

時刻モードでⒶボタンを押すごとに、温度表示と温度傾向グラフ表示が切り替わります。



温度傾向グラフはメモリーされた温度から、「最新データ」を基準にして1時間ごとの傾向グラフ（17時間分）として表示します。
※計測エラーがあった場合は、5段の中心のみ点灯します。

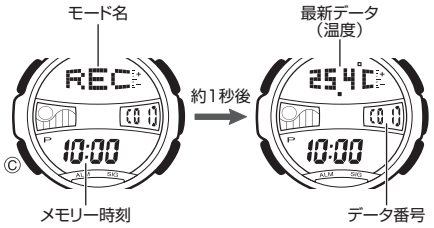


■温度メモリー機能について

温度メモリー機能とは、計測した温度データを最大50件まで記憶できる機能です。
※メモリーはどのモードのときでも、30分ごと（00分、30分）に自動的に行なわれます。

●メモリーされた温度を見る

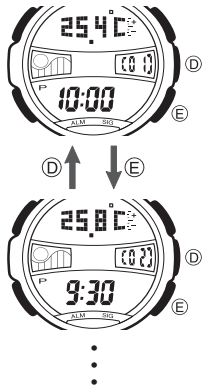
温度リコールモードに切り替えると、最新のメモリーデータ（データ番号01）を表示します。
※温度リコールモードに切り替えるには、時刻モードのときにⒸボタンを2回押します。



●記憶された温度を見る

ⒺまたはⒹボタンを押します

➡Ⓔボタンを押すごとに古いデータを表示し、Ⓓボタンを押すごとに新しいデータを表示します。
※Ⓔ・Ⓓボタンとも押し続けると早送りができます。



★メモリーがいっぱいになると
メモリー件数が50を越えると、データ番号50の古いデータから自動的に消去され、新たなデータがデータ番号1番としてメモリーされます。（後入れ優先）

■温度調整のしかた

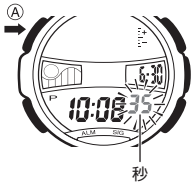
本機は工場出荷時に温度調整してありますので、温度調整を行なう必要はありませんが、本機の表示する温度が、信頼できる正確な温度計と大きく異なるときは、以下の手順で温度調整を行なってください。
※本機を腕からはずし、30分以上放置して温度を安定させてから行なってください。
※セット操作は速やかに行なってください。体温の影響により温度が変化することがあります。
※温度が未調整の状態で、－10～60℃の環境にない場合は調整できません。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約1秒間押します

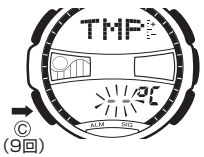
➡秒が点滅します。



2. 温度調整に切り替える

Ⓒ ボタンを9回押します

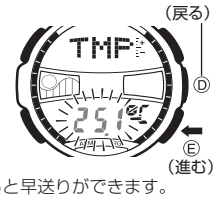
➡「－－」または設定温度が点滅します。
※「－－」は未調整の意味です。
※ TMP=Temperature（温度）



3. 温度をセットする

ⒺまたはⒹボタンを押します

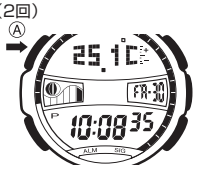
➡Ⓔ ボタンを押すごとに0.1℃ずつ進み、Ⓓボタンを押すごとに0.1℃ずつ戻ります。
※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。
※ 調整できる範囲は、表示している現在温度の±10.0℃以内となります。
※ Ⓔ・Ⓓ ボタンを同時に押すと、工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを2回押します

➡点滅が止まり、セット完了です。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



ストップウオッチの使い方

「モード切替え」にしたがいⒸボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で99時間59分59秒99（100時間計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウオッチモードのとき

Ⓔ ボタンを押します

➡Ⓔボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。



- 計測中にⒶボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります。（SPLマーク点灯）
- 計測終了後Ⓐボタンを押すと、計測値が0に戻ります。（リセット）

●通常計測

Ⓔ スタート → Ⓔ ストップ → Ⓐ リセット

＜積算計測＞
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒺボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓔ スタート → Ⓐ スプリット → Ⓐ スプリット解除 → Ⓔ ストップ → Ⓐ リセット



●1・2着同時計測

Ⓔ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓔ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

タイマーの使い方

「モード切替え」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマー時間は分単位で 100 時間までセットすることができ、セットした時間を経過（タイムアップ）すると、10 秒間電子音が鳴ります。

■ タイマー方法について

本機のタイマーは以下の２種類があり、使い方に合わせてお好きな方を選ぶことができます。

●リピートタイマー（繰り返し計測）

タイムアップすると、タイマー時間を表示して、計測が止まります。同じ時間を何回も計測するときに便利です。

●オートリピートタイマー（自動繰り返し計測）

タイムアップしても、計測ストップするまで自動的にタイマー時間に戻り、繰り返し計測を行ないます。

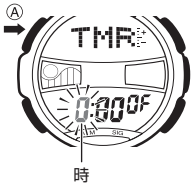
■ タイマー時間のセット

1. セット状態にする

タイマーモード（計測リセット状態）のとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「時」が点滅します。

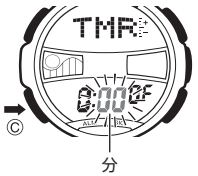


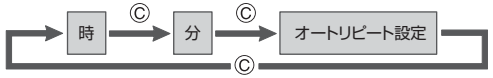
2. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で切り替わります。

※ 点滅箇所がセットできます。



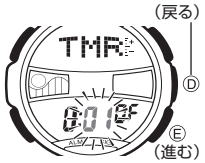


3. 点滅箇所のセット

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



手順 *2.*～*3.* の操作を繰り返して、時・分およびオートリピート設定をセットします。

※セット時間を 100 時間に設定するときは、表示を “0：00” にします。

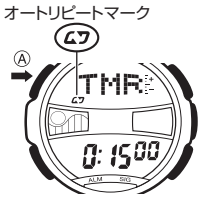
※オートリピート設定はⒺボタンを押すごとにリピート(OF)とオートリピート(On)が切り替わります。オートリピートを設定したときは、タイマーモードで “ↀ” が点灯します。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。



■ タイマーの使い方

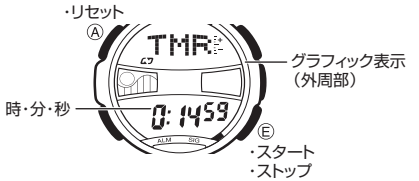
タイマーモードのとき

Ⓔ ボタンを押します

➡Ⓔボタンを押すごとに、計測がスタート／ストップします。

※ 計測は 1 秒単位で行ないます。

※ グラフィック表示は計測値に連動して、点灯／消灯を繰り返します。



●計測ストップ後 Ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります（リセット）。

●ロスタイムがあるときは、Ⓔ ボタンでストップ後、もう一度 Ⓔ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

★タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10 秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

★鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

アラーム・時報の使い方

「モード切替え」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、アラームモードにします。

アラームモードでは、時分を設定でき、設定した時刻になると 10 秒間電子音が鳴ります。
また、毎正時（00 分）に時報を鳴らすこともできます。

■ アラーム時刻のセット

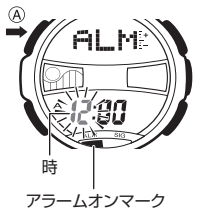
1. セット状態にする

アラームモードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「時」が点滅します。

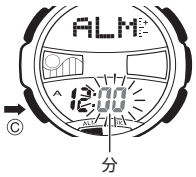
※ アラームオンマークが点灯し、自動的にアラームオンになります。



2. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。

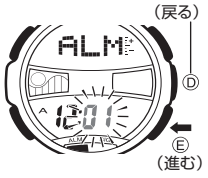


3. 点滅箇所のセット

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



手順 *2.*～*3.* の操作を繰り返して、時・分をセットします。

※「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。

※時刻モードの現在時刻を 24 時間制表示にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制表示になります。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。



★モニターアラーム

アラームモードでⒺボタンを押し続けると、押している間アラーム音が鳴ります。

★鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

■ アラーム・時報のON/OFF 設定

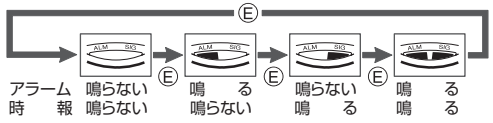
アラームモードのとき

Ⓔ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに、以下のようにアラームオンマークと時報オンマークが点灯／消灯を繰り返します。

※ それぞれのマークが点灯しているときがオンとなり、アラーム・時報が鳴ります。





ワールドタイムの使い方

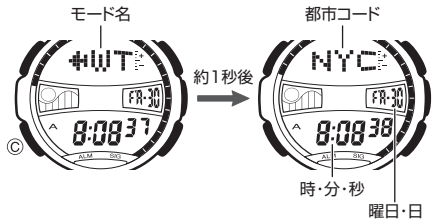
「モード切替え」にしたがい Ⓒ ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界50都市（30タイムゾーン）の時・分・秒、月・日・曜日を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

※ワールドタイムの「秒」は時刻モードの現在時刻の「秒」に連動しています。

※時刻モードの現在時刻を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。



■ご注意■

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻および時差を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

※セットについては「時刻・カレンダーの合わせ方」参照。

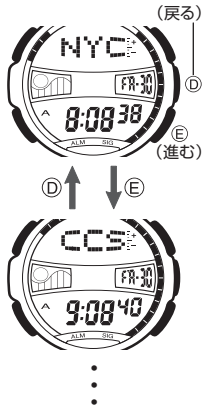
■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓔ ボタンを押すごとに都市コードが東回りで進み、Ⓓ ボタンを押すごとに戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。



■サマータイムの ON/OFF 設定

ワールドタイムモードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡Ⓐ ボタンを約 1 秒間押すごとにサマータイムの ON/OFF が切り替わります。

※ サマータイムが ON のときは、ワールドタイムモードで DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。



サマータイムをONにすると、ワールドタイムモードの全ての都市がサマータイム ONとなります。

★サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
PPG	−11	パゴパゴ	CAI	+2	カイロ
HNL	−10	ホノルル	JRS	+2	エルサレム
ANC	−9	アンカレジ	MOW	+3	モスクワ
YVR	−8	バンクーバー	JED	+3	ジェッダ
SFO	−8	サンフランシスコ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	−8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	−7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
MEX	−6	メキシコシティ	KHI	+5	カラチ
CHI	−6	シカゴ	MLE	+5	マーレ
MIA	−5	マイアミ	DEL	+5.5	デリー
NYC	−5	ニューヨーク	DAC	+6	ダッカ
CCS	−4	カラカス	RGN	+6.5	ヤンゴン
YYT	−3.5	セントジョンズ	BKK	+7	バンコク
RIO	−3	リオデジャネイロ	SIN	+8	シンガポール
RAI	−1	プライア	JKT	+7	ジャカルタ
LIS	+0	リスボン	HKG	+8	香港
LON	+0	ロンドン	BJS	+8	北京
BCN	+1	バルセロナ	SEL	+9	ソウル
PAR	+1	パリ	TYO	+9	東京
MIL	+1	ミラノ	ADL	+9.5	アデレード
ROM	+1	ローマ	GUM	+10	グアム
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
JNB	+2	ヨハネスブルグ	WLG	+12	ウェリントン
IST	+2	イスタンブール	TBU	+13	ヌクアロファ

※この表は2005年12月現在作成のものです。

※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

時刻・カレンダーの合わせ方

以下の操作は、時刻モードで行ないます。

電池交換後などで、時刻やカレンダーが合っていないときは、以下の方法でセットします。

※デジタル部の時刻を修正したときは、必ずアナログ部も修正してください。

■デジタル部の合わせ方

●秒合わせ

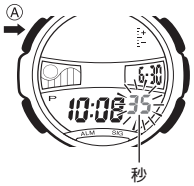
月に1度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「秒」が点滅します。

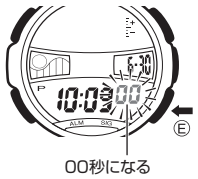


2. 秒を合わせる

Ⓔ ボタンを押します

➡「00秒」からスタートします。

※ 秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります（時報は「時報サービス117番」が便利です）。

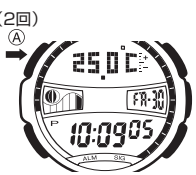


3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します



➡点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分間すると、自動的に点滅が止まります。

★サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■アナログ（針）部の合わせ方

アナログ部とデジタル部の時刻が合っていないときは、以下の操作で合わせてください。

※「モード切替え」にしたがいⒸボタンを押し、ハンドセット（針合わせ）モードにします。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します



➡現在時刻が点滅して、アナログ針のセット状態になります。

2. アナログ部を合わせる

Ⓔ ボタンを押します



➡Ⓔ ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分（20 秒）ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度にアナログ針を合わせます。

※ 押し続けると早く進みます（針は逆方向には進みません）。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します



➡点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

※ 操作のタイミングにより、針が少し遅れることがあります。このようなときは、もう一度セット状態にしてから針を１ステップか２ステップ進めてください。

★針の自動早送り

Ⓔ ボタンを押し続けている間、Ⓓボタンを押すと、ボタンを離しても針が自動的に早く進みます。

※いずれかのボタンを押すと針が止まります。

※時針が一回りすると早送りが止まります。

※アラームなどが鳴り出すと針が止まります。



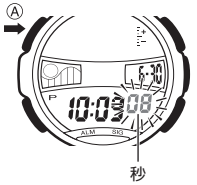
●時刻・カレンダーの合わせ方

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押します

➡「秒」が点滅します。



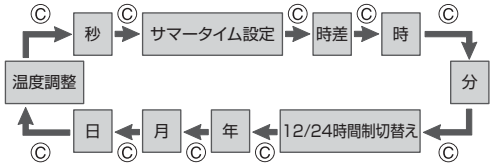
2. セット箇所を選ぶ

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で切り替わります。

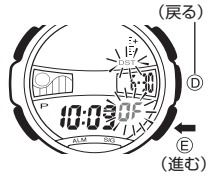
※ 点滅箇所がセットできます。





3. 点滅箇所のセット

Ⓔ または Ⓓ ボタンを押します



➡Ⓔ ボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓓ ボタンを押すごとに１つずつ戻ります。

※ Ⓔ・Ⓓ ボタンとも押し続けると早送りができます。

手順 *2.*～*3.* の操作を繰り返して、サマータイム設定および時刻・カレンダーをセットします。

※「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）、または 24 時間制にご注意ください。

※「年」は 2000～2099 年の範囲内でセットでき、年・月・日をセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外の修正は不要です。

※サマータイム設定は、Ⓔ ボタンを押すごとに On（オン）と OF（オフ）が切り替わります。ONのときは時刻モード、タイドサーチ、アラームモード、ハンドセットモードで DST マークが点灯します。

※12/24 時間制切替えは、Ⓔ ボタンを押すごとに 12H（12 時間制）と 24H（24 時間制）が切り替わります。

※時差については「都市コード一覧」を、温度調整については「温度調整のしかた」をご覧ください。